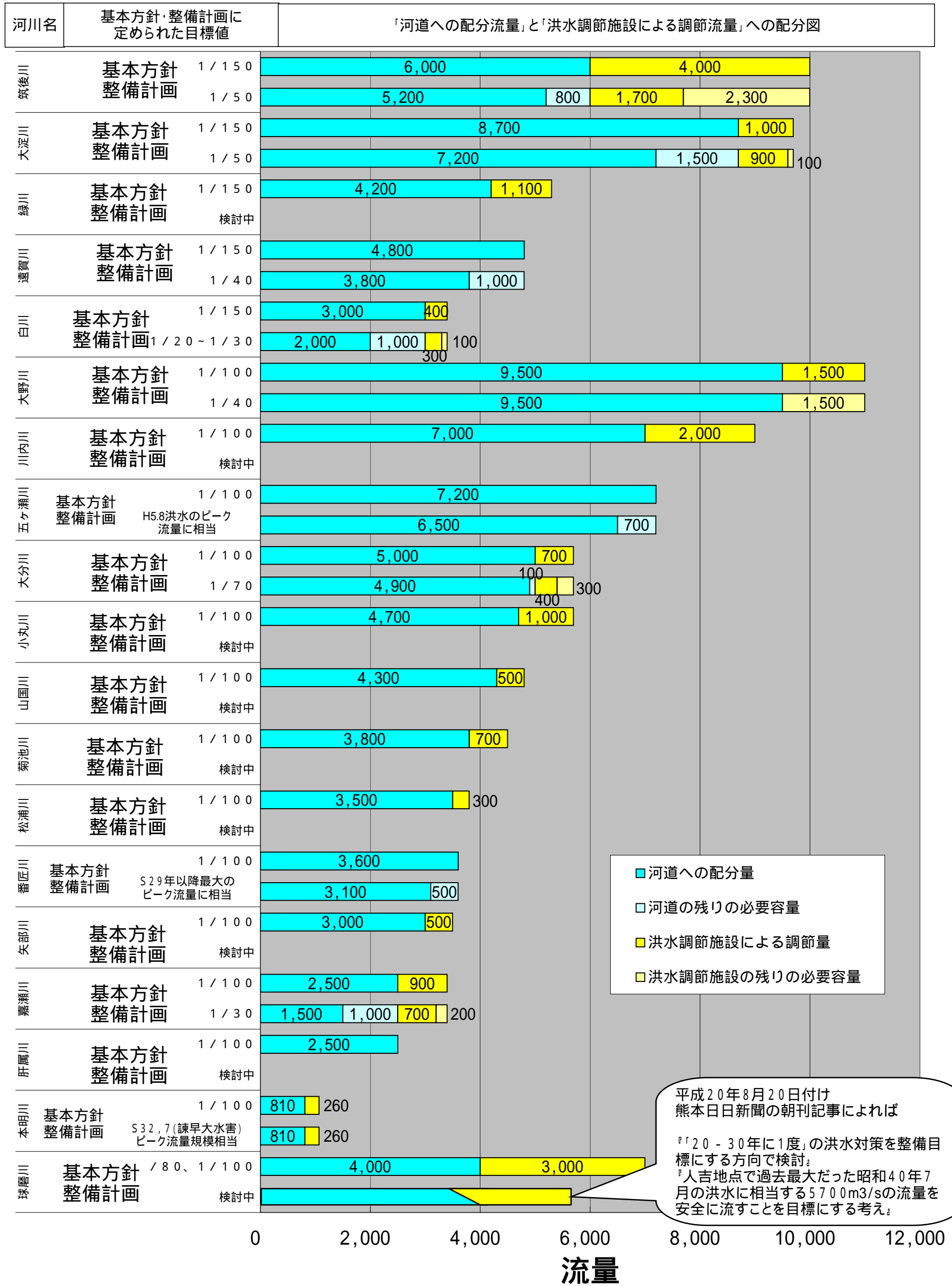


九州管内の一級河川における整備目標等一覧表



球磨川水系河川整備

国の治水目標下がる

洪水対策「20—30年に1度」へ

国土交通省九州地方整備局が年内にも策定を始める球磨川水系の河川整備計画で、「二十—三十年に一度の洪水対策を整備目標にする方向で検討していることが十九日、分かった。整備計画には、八十年に一度の洪水を想定した川辺川ダム建設を盛り込むものの、流域全体の河川整備などが間に合わないことを理由としている。」

川辺川ダム 議論の根底揺らぐ

同省は同ダム建設により「八十年に一度の洪水が防げる」と一貫して説明してきたが、治水目標が事実上、下がる形だ。浦島郁夫知事は九月に同ダムの是非を判断するとしているが、議論の根底が大きく揺らいでいる。

【4面に関連記事】

水害常襲地である中流域の河床の掘削、宅地かさあげ、JR鉄橋の架け替えなどの整備が進まないうち、同省は「治水のリスクを減らす」と判断し、分を流せないと判断した。同整備局によると、現行の河道で流せるのは三、千六百トンの治水安全度を確保するには「五年に一度」を下回

っているという。同整備局は「ダム自体の能力は変わらないが、流域全体の安全度を上げるための河川整備は予算的に難しい。ただ、五千七百トンの洪水に対応するためにダムが不可欠」と強調する。

これに対し、熊本大の柿本竜二准教授(土木計画学)は「治水のリスクと向き合い、ダムを選択するかどうかは、そもそも住民が決める問題。ダムを造っても効果が十分発揮されないのではあ

らば、これまでの議論の前提が大きく変わる」と話している。(岩下勉)

川辺川ダム計画 1996年、建設省(現国土交通省)が球磨郡相良村に建設を決定。計画では高さ107.5mの総貯水量1億3300万トンの多目的ダムだ

が、2007年に利水発電が撤退し、治水専用ダムとして見直される見通し。五木相良村の549戸が水没する。計画は08年度完成予定だが住民による反対運動もあり本体着工のめどは立っていない。総事業費は3300億円。浦島郁夫知事が9月に建設の是非を表明する。

国交省の球磨川治水目標

不信招く突然の数値

国土交通省 十一—三十年に一度の洪水を治水目標に設定。これまでは議論の根底防ぐためには同ダムが「八十年に一度」の洪水を治水目標に設定。川辺川ダムから覆す形となる。「八十年に一度」の洪水を治水目標に設定。川辺川ダムから覆す形となる。「八十年に一度」の洪水を治水目標に設定。

派などとの議論もその前提で交わされてきた。【一面参照】

七千トンはいわば、国がダム建設の根拠とした治水目標の根拠。県民を対象にした住民討論集、長期治水方針を定めた地元首長や専門家の意見も三強調してきた。

これに対して反対派は、八十年に一度の豪雨でも同地点の最大流量は五千五百トンの治水目標は河川整備と市房ダムで間に合うと反論。「七千トンはダムを造るための過大な設定だ」と主張してきた。

「五千七百」という数字が突然出てきたことは、国がこれまでの議論をなげがしろにしてきたとの不信を招いて仕方がない。ダム建設の根拠としてきた数値を治水目標が大きく下回ることも、県民には分かりづらい。国の説明不足との批判は免れない。

浦島郁夫知事が設けた有識者会議は、七千トンの数字には「二たわらない」とした上で、「ダム容認」で結論を

「八十年に一度」の洪水方針が「百五十年に一度」の洪水方針に引き上げられた。しかし、住民討論集では、二十—三十年間に整備目標を具体的に明記することが求めら

る。一方、九七年の河川法改正で、治水の長期目標である河川整備に実現可能な安全度を確保する。一方、九七年の河川法改正で、治水の長期目標である河川整備に実現可能な安全度を確保する。

「八十年に一度」の洪水方針が「百五十年に一度」の洪水方針に引き上げられた。しかし、住民討論集では、二十—三十年間に整備目標を具体的に明記することが求めら

実現可能な安全度設定 背景に97年の河川法改正

本方針と、中短期の整備計画の双方を定めるよう見直された。このうち、整備計画の策定では、二十—三十年間に整備目標を具体的に明記することが求めら

る。一方、九七年の河川法改正で、治水の長期目標である河川整備に実現可能な安全度を確保する。一方、九七年の河川法改正で、治水の長期目標である河川整備に実現可能な安全度を確保する。

「八十年に一度」の洪水方針が「百五十年に一度」の洪水方針に引き上げられた。しかし、住民討論集では、二十—三十年間に整備目標を具体的に明記することが求めら

る。一方、九七年の河川法改正で、治水の長期目標である河川整備に実現可能な安全度を確保する。一方、九七年の河川法改正で、治水の長期目標である河川整備に実現可能な安全度を確保する。

「80年に1度」→「20—30年に1度」 九地整「言及機会なく」

国土交通省が、これまで「八十年に一度」の大雨時の洪水を防ぐと説明し、球磨川の治水の要とされてきた川辺川ダム。九州地方整備局が今回、「二十—三十年に一度」の洪水対策という低い安全度を打ち出した背景には、改正河川法によって目標達成時期を明示するよう変更されたことがある。

川辺川ダムは、一九六六年に策定された工事実施基本計画で「八十年に一度」の治水効果

が盛り込まれた。た